

第7次棚倉町振興計画策定のための  
中学生アンケート調査結果報告書

棚 倉 町



# 目 次

I	調査の概要と回答者の属性	1
1	調査の概要	1
	(1) 調査目的	1
	(2) 調査対象及び調査方法、回収結果	1
	(3) 本報告書の留意事項	2
2	回答者の属性	3
	(1) 性別	3
	(2) 学年	3
	(3) 居住地区	3
II	調査結果	4
1	今の棚倉町のことについて	4
	(1) 町への愛着度	4
	(2) 今後の定住意向	6
	(3) 棚倉町の魅力	8
	(4) 棚倉町の問題点	10
2	これからの棚倉町のことについて	12
	(1) 今後のまちづくりの特色	12
	資料：調査票	15



# I 調査の概要と回答者の属性

## 1 調査の概要

### (1) 調査目的

本調査は、第7次棚倉町総合計画（令和7年度～令和16年度）の策定にあたって、町への愛着度や今後の定住意向をはじめ、今後のまちづくりの特色など、中学生の意識やニーズを把握し、計画づくりの基礎資料を得るために実施したものです。

### (2) 調査対象及び調査方法、回収結果

項目	内容
調査対象	棚倉中学校の生徒全員
配布数	401
調査方法	WEB方式（学校で調査票を配布し、回収はWEBによる回答・返信）
調査時期	令和5年6月
有効回収数	367
有効回収率	91.5%

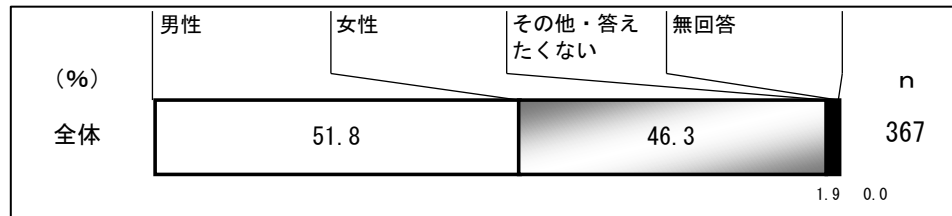
### (3) 本報告書の留意事項

- ① 比率はすべて百分率(%)で表し、小数点以下2位を四捨五入して算出しています。したがって、合計が100%を上下する場合があります。
- ② 基数となるべき実数(人数)は、“n=〇〇〇”として掲載し、各比率はnを100%として算出しています。
- ③ 質問の終わりに【複数回答】とある問は、1人の回答者が2つ以上の回答を出してもよい問です。したがって、各回答の合計比率は100%を超える場合があります。
- ④ 山岡地区の回答者が少数(10人・2.7%)でしたが、調査結果(P4以降)は、他地区と統合せずに山岡地区として分析しています。したがって、居住地区別の山岡地区の結果は、統計学的に有意性の低いものも含まれています。
- ⑤ 「町民アンケート調査」の結果と比較している部分がありますが、本調査は、令和5年6月に、18歳以上の町民3,000人(無作為抽出)を対象に実施したものであり、有効回収数は1,104、有効回収率は36.8%となっています。

## 2 回答者の属性

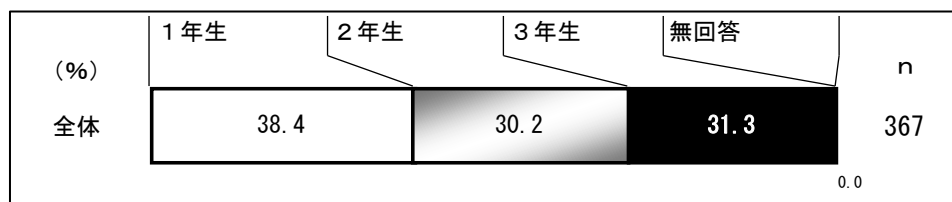
### (1) 性別

回答者の性別は、「男性」が 51.8%、「女性」が 46.3%、「その他・答えたくない」が 1.9%となっています。



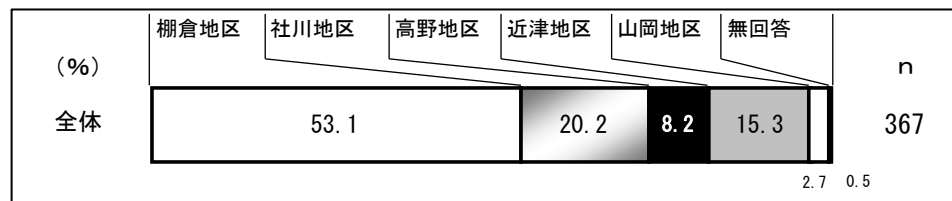
### (2) 学年

回答者の学年は、「1年生」(38.4%)、「3年生」(31.3%)、「2年生」(30.2%)の順となっています。



### (3) 居住地区

回答者の居住地区は、「棚倉地区」(53.1%)、「社川地区」(20.2%)、「近津地区」(15.3%)、「高野地区」(8.2%)、「山岡地区」(2.7%)の順となっています。



## Ⅱ 調査結果

### 1 今の棚倉町のことについて

#### (1) 町への愛着度

問2 あなたは、棚倉町に愛着を感じていますか（棚倉町が好きですか）。

● “愛着を感じている”が71.3%、“愛着を感じていない”が8.8%。

中学生の町への愛着度を把握するため、「愛着を感じている（好きだ）」、「どちらかといえば愛着を感じている（どちらかといえば好きだ）」、「どちらともいえない」、「どちらかといえば愛着を感じていない（どちらかといえば好きではない）」、「愛着を感じていない（好きではない）」の中から1つを選んでもらいました。

その結果、「愛着を感じている」と答えた人が36.2%で最も多く、次いで「どちらかといえば愛着を感じている」が35.1%で、これらをあわせた“愛着を感じている”という人が71.3%と7割強にのぼっています。これに対し、“愛着を感じていない”（「どちらかといえば愛着を感じていない」と「愛着を感じていない」同率4.4%の合計）という人は8.8%と1割に満たず、町への愛着度は高いといえます。

町民アンケートの結果と比較すると、“愛着を感じている”という率はほぼ同様に、愛着度は中学生と町民とで大きな違いはみられはみられません。

属性別で“愛着を感じている”という率をみると、性別では、男性（81.1%）が女性（63.6%）を約18ポイント上回り、愛着度は男性の方が特に高い（女性の方が特に低い）ことがうかがえます。

学年別では、1年生（83.7%）が2年生（63.0%）・3年生（64.4%）よりも大幅に高く、1年生の愛着度の高さ（2年生・3年生の低さ）が目立っています。

居住地区別では、高い順に、高野地区（83.3%）、棚倉地区（71.8%）、社川地区（70.2%）、山岡地区（70.0%）、近津地区（66.1%）となっており、高野地区の高さと近津地区の低さが目立っています。

なお、町民アンケートの居住地区別の結果では、近津地区の愛着度が最も高かったことから、近津地区では、子どもと大人で愛着度が大きく異なることがうかがえます。

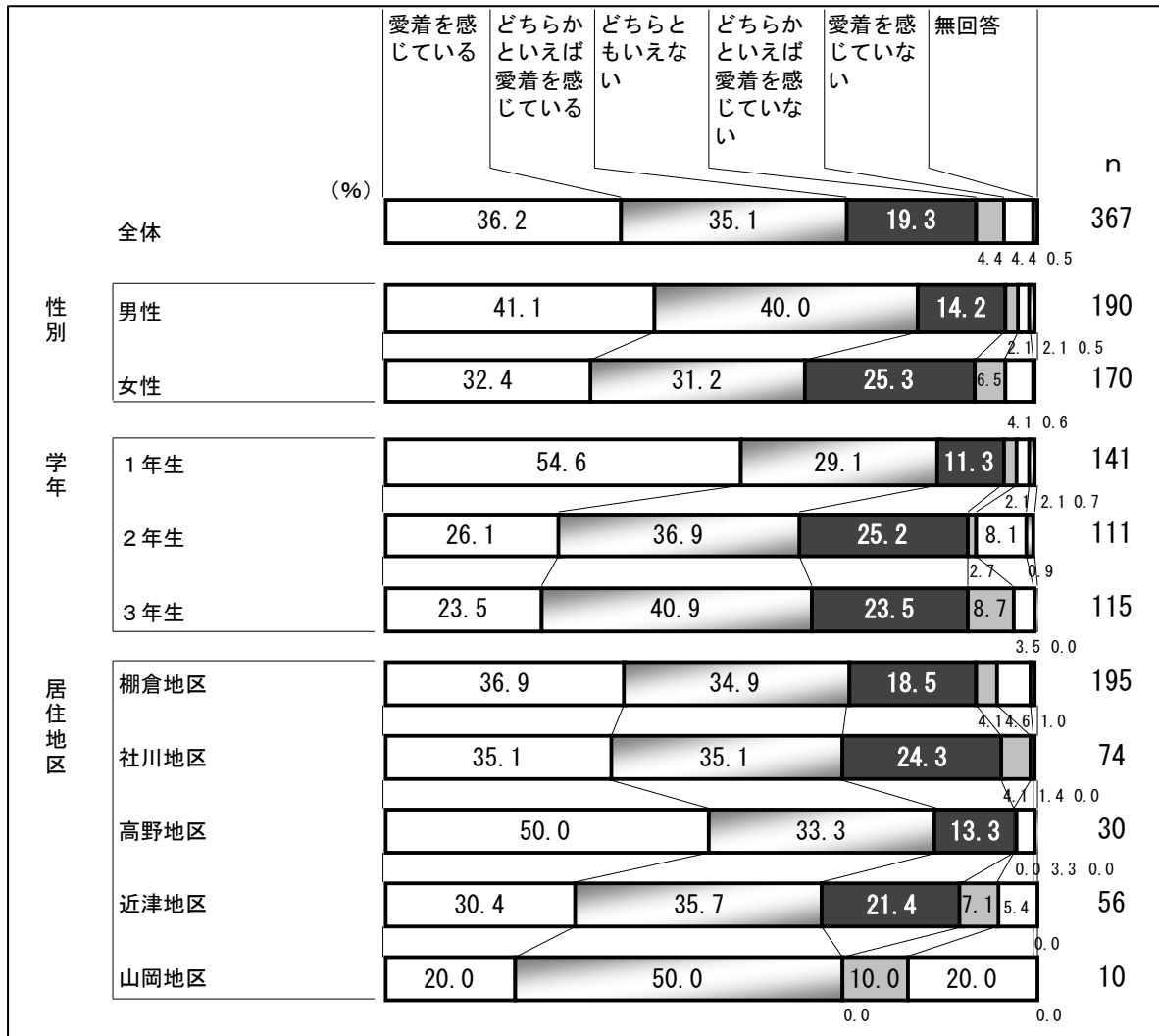
[図表1参照]

#### 【比較】

町民アンケート “愛着を感じている”が70.3%、“愛着を感じていない”が7.2%



図表1 町への愛着度（全体・性別・学年・居住地区）



## (2) 今後の定住意向

問3 あなたは、将来も棚倉町に住みたいと思いますか。

● “住みたい” が 32.5%、“住みたくない” が 24.0%。

中学生の将来の定住意向を把握するため、「住みたい」、「どちらかといえば住みたい」、「どちらともいえない」、「どちらかといえば住みたくない」、「住みたくない」の中から1つを選んでもらいました。

その結果、「どちらともいえない」と回答を保留した人が43.3%と4割強にのぼっていますが、これ以外では、「どちらかといえば住みたい」(18.3%)が最も多く、「住みたい」(14.2%)を合わせた“住みたい”という人は32.5%と3割強となっています。これに対し、“住みたくない”(「どちらかといえば住みたくない」14.7%と「住みたくない」9.3%の合計)という人は24.0%と2割強となっています。

町民アンケートの結果と比較すると、“住みたい”という率は中学生が町民を約35ポイント下回り、定住意向は中学生の方が特に弱い(町民の方が特に強い)ことがうかがえます。

また、問2の町への愛着度の結果(“愛着を感じている”が71.3%)とあわせてみると、「町に愛着は感じているが、住みたくはない」という中学生がかなり存在すると考えられます。

属性別で“住みたい”という率をみると、性別では、男性(38.9%)が女性(26.5%)を約12ポイント上回り、定住意向は男性の方が大幅に強い(女性の方が大幅に弱い)ことがうかがえます。

学年別では、1年生(44.0%)が2年生(24.3%)・3年生(26.1%)よりも大幅に高く、1年生の定住意向の強さ(2年生・3年生の弱さ)が目立っています。

居住地区別では、高い順に、高野地区・山岡地区(同率40.0%)、社川地区(36.5%)、棚倉地区(31.3%)、近津地区(26.8%)となっており、問2の町への愛着度と同様に、高野地区の高さと近津地区の低さが目立っています。

なお、町民アンケートの居住地区別の結果では、近津地区の定住意向が2番目に高かったことから、近津地区では、問2の愛着度と同様に、定住意向についても、子どもと大人で大きく異なることがうかがえます。[図表2参照]

### 【比較】

町民アンケート “住みたい” が 67.8%、“住みたくない” が 8.3%

図表2 今後の定住意向（全体・性別・学年・居住地区）

		住みたい	どちらか と い え ば 住 み た い	どちらと も い え な い	どちらか と い え ば 住 み た く な い	住みたく な い	無回答	n
全体		14.2	18.3	43.3	14.7	9.3		367
性別	男性	18.9	20.0	42.1	11.6	7.4		190
	女性	9.4	17.1	45.3	17.6	10.0		170
学年	1年生	19.9	24.1	43.3	6.4	6.4		141
	2年生	11.7	12.6	48.6	15.3	10.8		111
	3年生	9.6	16.5	38.3	24.3	11.3		115
居住地区	棚倉地区	15.9	15.4	42.6	14.4	11.3		195
	社川地区	14.9	21.6	44.6	13.5	5.4		74
	高野地区	6.7	33.3	30.0	23.3	6.7		30
	近津地区	10.7	16.1	53.6	14.3	5.4		56
	山岡地区	20.0	20.0	30.0	10.0	20.0		10

### (3) 棚倉町の魅力

問4 あなたは、棚倉町の魅力（よいところ）は何だと思いますか。【複数回答】

- 「自然が豊かである」が他を引き離して第1位。次いで「人がやさしい」、「歴史的なものが多い」の順。

町の魅力については、「自然が豊かである」（74.4%）が他を大きく引き離して第1位で、“自然の豊かさ”を町の魅力と感じている人が特に多くなっています。

これ以外では、「人がやさしい」（39.8%）、「歴史的なものが多い」（31.3%）の順で、“人のやさしさ”と“歴史的・文化的資源の存在”を町の魅力と感じる人も一定数にのぼっています。

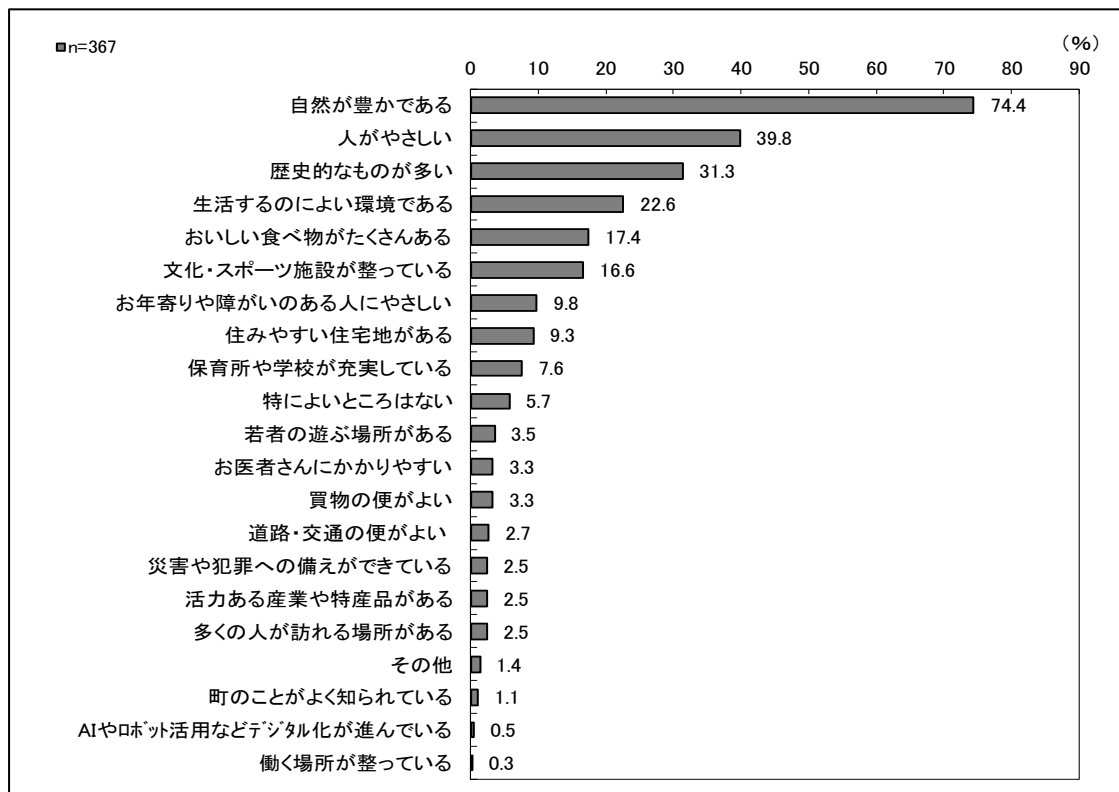
町民アンケートの結果と比較すると、“自然の豊かさ”をはじめ、“人のやさしさ”や“歴史的・文化的資源の存在”は共通して上位にあげられていますが、町民で第2位の“買物の便利さ”が中学生では第13位で、買物環境の評価が子どもと大人で大きく異なることが特徴としてあげられます。

属性別でみると、すべての属性で町全体と同様に「自然が豊かである」が第1位、その他の上位回答も町全体とほぼ同様で、大きな違いはみられません。[図表3・4参照]

#### 【比較】

町民アンケート 「自然が豊かである」、「買物の便がよい」、「歴史文化や伝統芸能がある」の順。

図表3 棚倉町の魅力（全体／複数回答）



図表4 棚倉町の魅力（全体・性別・学年・居住地区－上位第3位／複数回答）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		自然が豊かである 74.4	人がやさしい 39.8	歴史的なものが多い 31.3
性別	男性	自然が豊かである 74.7	人がやさしい 37.4	歴史的なものが多い 31.6
	女性	自然が豊かである 75.9	人がやさしい 43.5	歴史的なものが多い 31.8
学年	1年生	自然が豊かである 79.4	人がやさしい 44.0	生活するのによい環境である 28.4
	2年生	自然が豊かである 72.1	歴史的なものが多い 43.2	人がやさしい 36.0
	3年生	自然が豊かである 70.4	人がやさしい 38.3	歴史的なものが多い 30.4
居住地区	棚倉地区	自然が豊かである 69.2	人がやさしい 39.5	歴史的なものが多い 30.8
	社川地区	自然が豊かである 79.7	歴史的なものが多い／人がやさしい 37.8	
	高野地区	自然が豊かである 96.7	人がやさしい 60.0	歴史的なものが多い 33.3
	近津地区	自然が豊かである 75.0	人がやさしい 32.1	歴史的なものが多い 30.4
	山岡地区	自然が豊かである 70.0	生活するのによい環境である／人がやさしい／特によいところはない 30.0	

#### (4) 棚倉町の問題点

問5 あなたは、棚倉町の問題点（悪いところ）は何だと思いますか。【複数回答】

- 「若者の遊ぶ場所が少ない」が他を引き離して第1位、次いで「多くの人が訪れる場所が少ない」、「AIやロボット活用などデジタル化が進んでいない」の順。

町の問題点については、「若者の遊ぶ場所が少ない」（55.3%）が他を引き離して第1位で、“若者の遊び場の少なさ”が強く指摘されています。

これ以外では、「多くの人が訪れる場所が少ない」（26.7%）、「AIやロボット活用などデジタル化が進んでいない」（18.5%）の順で、“観光資源の少なさ”や“デジタル化の遅れ”を指摘する人も一定数にのぼっています。

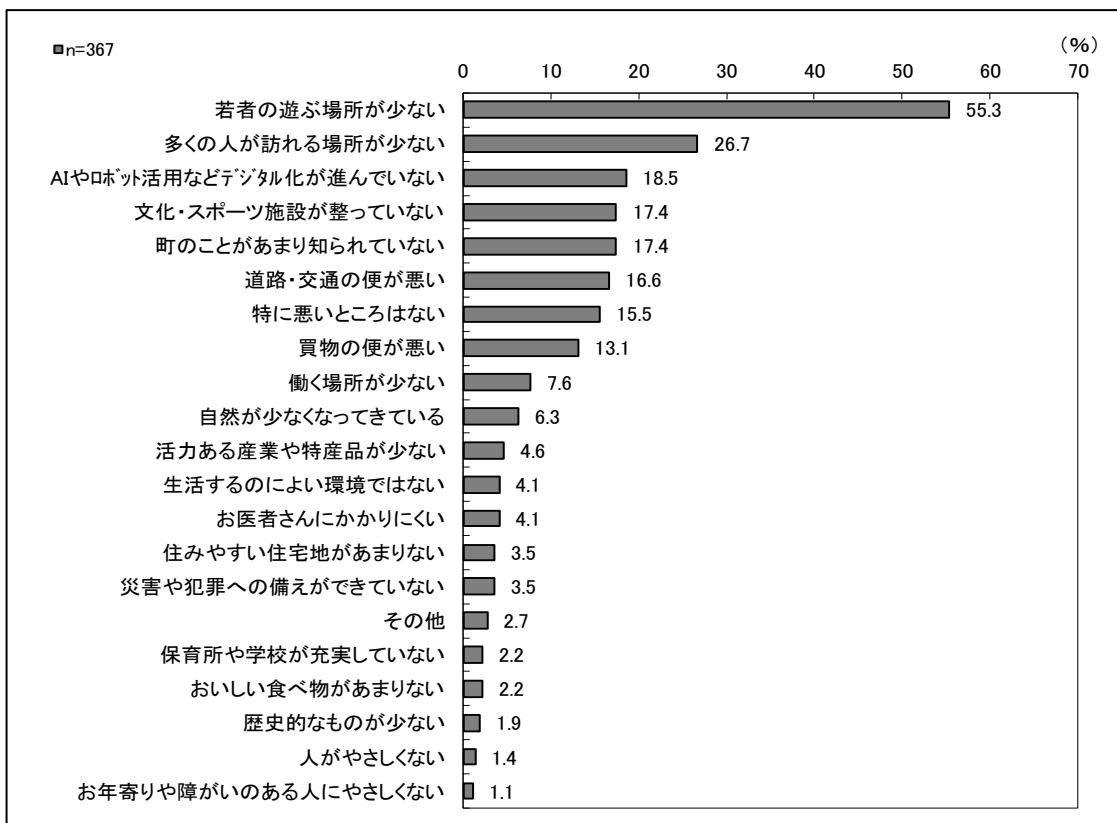
町民アンケートの結果と比較すると、町民では、「働く場が少ない」、「活力ある産業や特産品が少ない」、「若者の娯楽施設が少ない」の順で、“若者の遊び場の少なさ”も第3位に入っていますが、“雇用の場の不足”と“産業・特産品の少なさ”が強く指摘されており、子どもと大人で、問題点と感ずることに大きな違いがみられます。

属性別でみると、すべての属性で町全体と同様に「若者の遊ぶ場所が少ない」が第1位で、特に大きな違いはみられません。[図表5・6参照]

#### 【比較】

町民アンケート 「働く場が少ない」、「活力ある産業や特産品が少ない」、「若者の娯楽施設が少ない」の順。

図表5 棚倉町の問題点（全体／複数回答）



図表6 棚倉町の問題点

(全体・性別・学年・居住地区—上位第3位／複数回答)

(単位：%)

		第1位	第2位	第3位
全体		若者の遊ぶ場所が少ない 55.3	多くの人が訪れる場所が少ない 26.7	A Iやロボット活用などデジタル化が進んでいない 18.5
性別	男性	若者の遊ぶ場所が少ない 48.9	多くの人が訪れる場所が少ない 29.5	文化・スポーツ施設が整っていない 23.2
	女性	若者の遊ぶ場所が少ない 62.9	多くの人が訪れる場所が少ない 24.1	町のことがあまり知られていない 18.8
学年	1年生	若者の遊ぶ場所が少ない 36.2	特に悪いところはない 28.4	町のことがあまり知られていない 22.7
	2年生	若者の遊ぶ場所が少ない 68.5	A Iやロボット活用などデジタル化が進んでいない 31.5	多くの人が訪れる場所が少ない 25.2
	3年生	若者の遊ぶ場所が少ない 66.1	多くの人が訪れる場所が少ない 35.7	道路・交通の便が悪い 25.2
居住地区	棚倉地区	若者の遊ぶ場所が少ない 55.4	多くの人が訪れる場所が少ない 26.2	A Iやロボット活用などデジタル化が進んでいない 20.5
	社川地区	若者の遊ぶ場所が少ない 47.3	多くの人が訪れる場所が少ない 24.3	文化・スポーツ施設が整っていない 20.3
	高野地区	若者の遊ぶ場所が少ない 70.0	道路・交通の便が悪い 40.0	多くの人が訪れる場所が少ない 30.0
	近津地区	若者の遊ぶ場所が少ない 58.9	多くの人が訪れる場所が少ない 28.6	A Iやロボット活用などデジタル化が進んでいない 26.8
	山岡地区	若者の遊ぶ場所が少ない 60.0	多くの人が訪れる場所が少ない 40.0	生活するのによい環境ではない／お医者さんにかかりにくい／買物の便が悪い／特に悪いところはない 20.0

## 2 これからの棚倉町のことについて

### (1) 今後のまちづくりの特色

問6 あなたは、今後、棚倉町 はどんなまちになったらよいと思いますか。【複数回答】

● 「安全・安心のまち」、「観光・交流のまち」、「快適住環境のまち」の順。

今後のまちづくりの特色については、「安全・安心のまち」(47.1%)が第1位、「観光・交流のまち」(42.8%)が第2位、「快適住環境のまち」(34.1%)が第3位で、これらは以下をやや引き離しており、“災害や犯罪、事故からの安全性の確保”と“観光・交流の充実”、“快適な居住環境の整備”を望む人が多いことがうかがえます。

町民アンケートと比較すると、ともに第1位は「安全・安心のまち」で、子どもも大人も、“災害や犯罪、事故からの安全性の確保”を強く望んでいることがうかがえます。

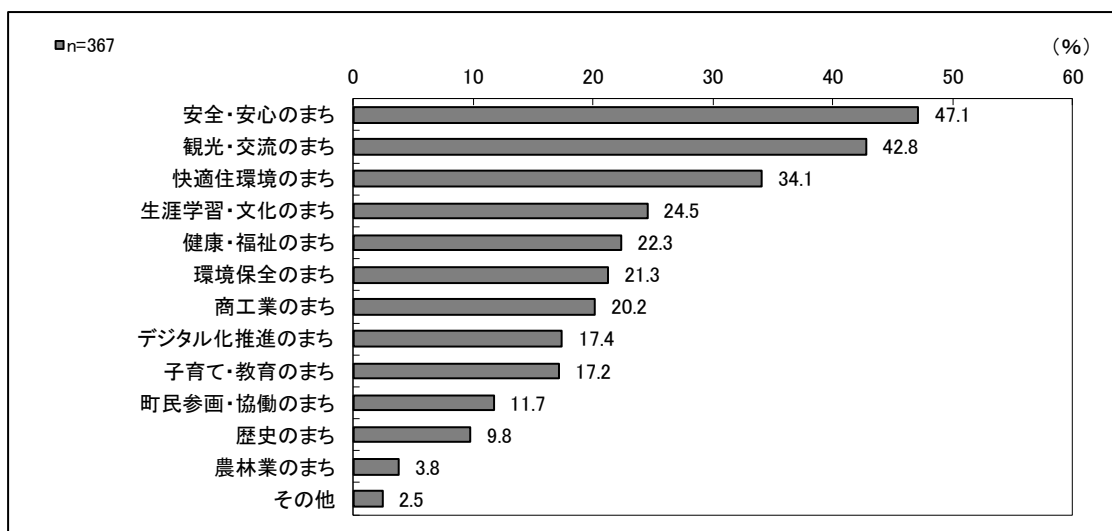
また、第2位以下をみると、中学生では「観光・交流まち」、「快適住環境のまち」、町民では「健康・福祉のまち」、「子育て・教育のまち」の順で、中学生では“観光・交流の充実”と“快適な居住環境の整備”、町民では“保健・医療・福祉の充実”と“子育て環境・教育環境の充実”を重視する人が多く、かなりの違いをみせています。

属性別でみると、ほとんどの属性で町全体と同様に「安全・安心のまち」と「観光・交流のまち」が第1位あるいは第2位で、特に大きな違いはみられません【図表7・8参照】

【比較】

町民アンケート 「安全・安心のまち」、「健康・福祉のまち」、「子育て・教育のまち」の順。

図表7 今後のまちづくりの特色（全体／複数回答）





図表8 今後のまちづくりの特色

(全体・性別・学年別・居住地区別－上位第3位／複数回答)

(単位：%)

		第1位	第2位	第3位
全体		安全・安心のまち 47.1	観光・交流のまち 42.8	快適住環境のまち 34.1
性別	男性	安全・安心のまち 51.6	観光・交流のまち 40.0	快適住環境のまち 33.2
	女性	観光・交流のまち 47.1	安全・安心のまち 42.4	快適住環境のまち 35.3
学年	1年生	安全・安心のまち 62.4	観光・交流のまち 34.8	健康・福祉のまち 29.1
	2年生	観光・交流のまち 42.3	安全・安心のまち／快適住環境のまち 38.7	
	3年生	観光・交流のまち 53.0	快適住環境のまち 39.1	安全・安心のまち 36.5
居住地区	棚倉地区	安全・安心のまち 48.2	観光・交流のまち 41.0	快適住環境のまち 35.9
	社川地区	安全・安心のまち 55.4	観光・交流のまち 41.9	快適住環境のまち 35.1
	高野地区	観光・交流のまち 56.7	安全・安心のまち 46.7	生涯学習・文化のまち 33.3
	近津地区	観光・交流のまち 46.4	快適住環境のまち 33.9	安全・安心のまち／生涯学習・文化のまち 30.4
	山岡地区	安全・安心のまち／商工業のまち 50.0		快適住環境のまち／健康・福祉のまち 30.0

